

鋸南マラソン

児玉 寛嗣

雨模様の天気が続いている。この時期になると鋸南マラソンを思い出す。ジヨギングを始めたのは中学の頃、スポーツは苦手な運動クラブには入ってはなかったが健康のため帰宅後に自宅の周りを走っていた。大学時代は中断。会社に入って再開し、毎日、昼休みに着替えて工場を出発、鶴見線の二駅分を往復するコースを走っていた。それも出張が増えるなどで途切れ途切れになり長続きはしなかった。

十五年ほど前、職場の仲間に市民マラソンに誘われて再開した。最初は十キロコースに挑戦、距離を伸ばしてハーフマラソンを走るようになった。

市民マラソンは通常、気温の低い晩秋から冬にかけて開催される。鋸南マラソンは五月末か六月上旬の梅雨の晴れ間のなかで行われるハーフマラソンだ。内房の鋸山の南にある鋸南町で開催される。

山麓を走るアップダウンの多いコース。スタート後、田んぼの畦道を走り抜ける。やがて山あいに入る。緑が眩しく、木陰に入ると心地よい。樹々が途切れ間から見下ろす景色に「こんなに登ってきたのか」と感動する。復路に入ったトップ集団とすれ違う。

折り返し地点は三十メートルほど下った谷底だ。復路に入っすぐの登りはきつい。しかし、地元の小学生の「ガンバレ」の声援に背中を押されてスローではあるが走って登り切る。

途中にある水分補給コーナーには近隣の農家の人々が作った漬物やお菓子などもあって暖かいおもてなしを受ける。立ち止まって農家の人と話をしているランナーもいる。若い人に追い越されながらも二時間かけてマイペースで完走する。

参加賞として地元で採れた新鮮な野菜がもらえるのは嬉しい。帰りはスーパー銭湯で仲間と汗を洗い流した後、長風呂の女性陣を待つビールで乾杯し、翌年の再会と完走を誓い合う。

毎年、参加していたが、七年ほど前に足に血栓が出来るという大病を患って走ることを断念した。コロナ禍のなかで開催するかどうかと思いいホームページを見たら今年もやるようだ。後輩たちは健脚を競うだろう。